

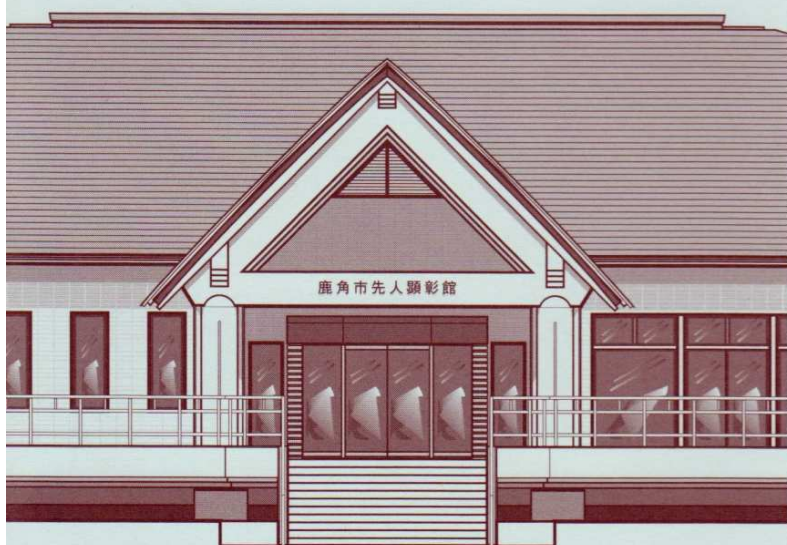
新しい文化を築いた人々…

先人顕彰シリーズ⑧

●高橋克三●

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。



鹿角市先人顕彰館 FAX 0186-35-5250

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地の2

略 歴

- 明治21年 1888 高橋七郎・トミの長男として毛馬内に生まれる。
- 明治42年 1909 ●秋田県師範学校卒業。
●毛馬内尋常高等小学校の教師として勤務。
- 明治44年 1911 勝又ヒサ（湖南夫人の姪）と結婚。
- 大正2年 1913 「毛馬内町誌」を毛馬内小学校の同僚とまとめる。昭和3年に改訂版をまとめる。
- 大正6年 1917 病気により学校を退職—大正14年に復職。
- 昭和5年 1930 ●大湯尋常高等小学校長になる。以後、毛馬内、小坂、花輪小学校長などを歴任。
●「近世鹿角郡学統考」を著す。昭和50年「近世鹿角学統考」として再版。
- 昭和13年 1938 「毛馬内郷土読本」、昭和15年「郷土偉人の面影」を著す。
- 昭和21年 1946 正六位に叙せられる。教職を退く。毛馬内町農地委員となる。
- 昭和23年 1948 毛馬内町助役に就任・一期4年を勤める。
- 昭和32年 1957 「内藤湖南先生頌徳碑」建設。以後「和井内貞行翁」の胸像、「内藤湖南先生誕生地」「石川伍一君誕生の地」碑などを建設。
- 昭和40年 1965 「湖南博士と伍一大人」を著す。
- 昭和47年 1972 学制100年記念に文部大臣より表彰される。
- 昭和55年 1980 「内藤湖南先生顕彰会」を設立し初代会長に就任。翌年に機関誌「湖南」を創刊。
- 昭和59年 1984 秋田魁新報創刊110周年記念式典で記念章を授与される。逝去・享年96才。
- 昭和63年 1988 氏の念願であった「先人顕彰館」が完成。

高橋克三の業績



晩年の肖像画（牧 大介・画）

◆教育者としての高橋克三◆

秋田県師範学校しはんの卒業と同時に毛馬内小学校で教職への第一歩を踏み出す。病気により一時休職するが、昭和21年まで38年もの長きにわたり子弟教育に専念する。

この間、大湯、毛馬内、小坂、花輪の各小学校長や花輪青年学校長、花輪幼稚園長などを歴任し、晩年には十和田町教育委員長も務める。これらの功績により昭和47年には学制100年を記念し、文部大臣から表彰されている。

◆郷土研究家としての高橋克三◆

若くして郷土研究に意欲を燃やし、25歳のとき「毛馬内町誌」へんさんを編纂し新渡戸稲造博士から賞賛された。以来「毛馬内町誌」の改訂版、「毛馬内郷土読本」、「郷土偉人の面影」、「学園都市の提言」などを著わし、これらの著書は現在、貴重な郷土研究資料となっている。

先人の顕彰事業にも努力し、内藤湖南、和井内貞行、石川伍一などの碑の建設を推進した。

昭和45年、郡内町村に先駆けて「十和田町芸術文化協会」**設立時、初代会長**となり、機関誌「芸文とわだ」を創刊した。

また、自ら書をたしなみ、地域に残る貴重な書画の保存に努めた功績も大きい。



毛馬内町誌・毛馬内郷土読本などの著書



和井内貞行翁の胸像

◆内藤湖南研究家としての高橋克三◆

「毛馬内町誌」の校閲を依頼するなど若いときから内藤湖南ちやうしに心服していた。昭和32年には内藤湖南先生頌徳碑こうまつを建設、記念に貝塚茂樹京大教授の講演会を、40年には湖南先生生誕100年記念祭を挙行し海原末治京大名誉教授の講演会を、56年には湖南先生没後50回忌記念講演会・遺墨遺品展示会を挙行するなど、湖南の学問を地域に紹介することに努めた。

また、「近世鹿角(郡)学統考」きんせいや「湖南博士と伍一大人」くわんなどを著わし、さらには「内藤湖南先生顕彰会」かくだうこうを設立して湖南研究を後世に引きつぐなど、その業績は高く評価され、秋田魁新報創刊110周年記念式典で記念章を授与されている。この副賞50万円を「内藤湖南先生顕彰会」に寄付したことが「鹿角市先人顕彰館」建設の基となった。



「湖南博士と伍一大人」などの著書と「湖南」（創刊号）



秋田魁新報社からの顕彰状